



天文資料

2021年 3月号

令和3年度 第12号 (3月号)

令和3年2月26日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



＜西を見ると「冬の星座」、東を見ると「春の星座」が主役です＞

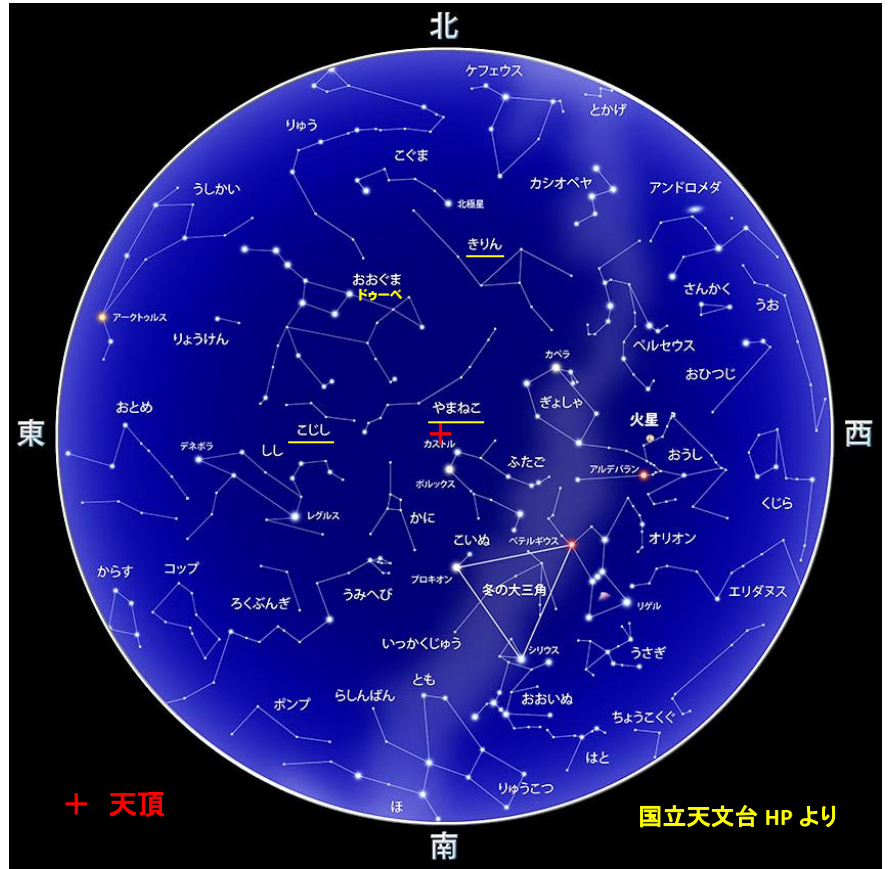
2月は中旬にまとまった雪が降りましたが、それ以外の時期は比較的温暖な日が多かったようです。

本年度も最後の月、3月を迎えました。

3月の星空は、天頂から西の方を見るとオリオン座を中心とした「冬の星座」が、天頂から東の方を見るとしし座を中心とした「春の星座」とはっきり分かります。(3月中旬、21時ごろ) また、昨年注目された火星も遠ざかり随分暗くなりましたが、おうし座アルデバラン、オリオン座ベテルギウスといった赤い一等星のそばで存在をアピールしているように輝いています。

そのような星空ですが、今回はマイナーな星座を3つご紹介いたします。暗い星ばかりでできた星座なので人工の明かりがない場所に出かけないと、まず見えません!

- ★きりん座: おおぐま座ドーベ、北極星、ぎよしゃ座カペラで囲まれたエリアにあります。17世紀にバルチウスによってつくられた星座で、もともと「らくだ座」だったのが、ラテン語の綴りが「きりん」と似ていたため間違われたといわれています。
- ★やまねこ座: おおぐま座ドーベ、ぎよしゃ座カペラ、ふたご座ポルックスで囲まれたエリアにあります。17世紀にヘベリウスによってつくられた星座で「やまねこ座を見つけるには、山猫のような鋭い視力が必要だ」とヘベリウス自身が語っています。
- ★こじし座: しし座とおおぐま座の間にあります。17世紀にヘベリウスによってつくられた星座で、ちょうどしし座の背中に位置するため「ライオンの親子」とも見るができます。



＜火星探査車パーシビアランスが火星に着陸＞

NASA(アメリカ航空宇宙局)の無人火星探査車パーシビアランスが、日本時間の2月19日に火星に到着しました。着陸地点は、かつて液体の水が流れていたと考えられるジェゼロ・クレーターです。

この探査車は、昨年7月フロリダ州ケープカナベラル空軍基地から打ち上げられました。最新の機材を搭載し、火星に生命が存在した痕跡を探るのが最大のミッションです。長さ約3m、幅約2.7m、重さ約1トン、6個の車輪で地表を移動し岩石や大気中のサンプルを採集します。重さ約2kgの小型ヘリも搭載し、条件が整えば飛行試験を実施します。成功すれば、今後の低高度の大気観測に道が開けます。

将来(2030年代)の有人探査をにらみ、火星大気の大半を占める二酸化炭素を酸素に変換する装置も搭載しています。

サンプルは将来、地球帰還を想定する別の探査機が持ち帰る計画です。(新聞記事より)



↑ NHK NEWS WEB より